

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1771400387		
法人名	加陽産業株式会社		
事業所名	グループホームかたばたの里 こはるの家		
所在地	石川県河北郡津幡町字潟端つ5番8		
自己評価作成日	平成31年3月20日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www5.pref.ishikawa.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人シナジースマイル
所在地	石川県金沢市千木町リ129番地
訪問調査日	平成31年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道から入った田園の中に集落があり、グループ法人の2つのユニット(棟)と共に位置している。敷地の中央はゆったりしたスペースで家族や地域住民との交流の場として活用している。建物の周囲には遊歩道があり、季節の草花や野菜も栽培され、屋内外から目ににぎやかである。地域密着型サービスとしての理念を全職員で意見を出し合い、運営推進会議にも出しながら作り上げ、「人と人とのつながりや挨拶、気軽な声かけ、助け合い」を大切にすることを謳っている。利用者は一人での散歩、遅めの朝食、テレビ観賞、野菜の皮むき、居室での趣味、洗濯物たたみ等それぞれに好きなように過している。職員は、共同生活での人間関係の中で、利用者自らが積極的に動き、それぞれの持つ力を発揮できるよう、調理や食後の後片付け、リビングや玄関の掃除など自主的な動きを待ち見守っている姿勢が見られる。毎月、利用者の健康状態や暮らしぶりをお便りにて家族に送付し、日常からもコミュニケーションを密にとり、家族と共に利用者の望む暮らしを大切に考え、支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな住宅街の中に既にしっかりとけ込んだ環境を有しており、ホームから見える各々の景観は、四季折々の色合いに変化して入居者の方々の長い年月を折々に振り返る。ホームを囲むように遊歩道が整備されており、安全に、繰り返し散策が楽しめるよう考えられている。光の入るリビングに自然と入居者さんたちが集まり、職員は個々の暮らし方を理解した接し方で日常の穏やかさと変化を支援している。健康に関しては、協力医療機関が3法人あることから、あらゆる状況に対応できるように組織化・連携が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念であるゆったりした気持ちで寄り添う喜びをわかちあう心を目指し、職員間で共有し実践につなげている。	「ゆったり」の理念に基づき入居の個々の性格、今までの生活を継続出来る様に努めており、自立支援を基本として個別に対応している。職員一人一人が入居者一人一人を知ることから始まり、日々のケアに努めている。管理者は、職員の目線でケアをするのではなく、本人を主体として支援することを絶えず指導しながら周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩にでかけ地域の方とあいさつを交わしたり、納涼祭に近所の方々を招くなど、交流がもてる機会を設けている。また、ボランティアの受け入れなどで交流を図っている。	若い世代が多く住む町である事から平日の日中は交流が少ない。しかしながらホームで行われる納涼祭などを休日に開催し、多くの地域の方に参加して頂ける様に行事案内を行ったうえ参加を呼び掛けている。その他地域の行事参加や、毎年恒例となっている中学生の職場体験も実施し、入居者との交流の場ともしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症について理解していただけるように、運営推進会議にて講義や意見交換を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	交流を深めるため、利用者様の状況や行事、取り組みなどの報告をしている。それについての質疑応答・意見交換を行い、それを考慮しサービスの向上に活かしている。	運営推進委員会を平日に行っており、行事も同日に取り入れ、できる限り多くの家族の方に参加して頂けるよう工夫している。今のところ2・3家族の決まった家族の参加が主となっているが、確実に参加者を増やしている。運営推進委員会のメンバーとして役場職員、区長、民生委員の方にも参加を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場に事業所の運営と現状報告を行う。また利用者様についての相談を行い、助言をいただきケアサービスに取り組めるように努めている。	3ヶ月に1回津幡町のグループホーム管理者が集まり他の事業所との情報交換を行っており、他のホームの意見も参考にしながらケアの質の向上ともなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部講師を招き、職員間で身体拘束について勉強・話し合いを行い、理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。入居者自身がある程度以上自立しており、ご自身の意思を伝える事ができている。又、本人やご家族の意見が聞ける様に密な関係性づくりを心掛けている。馴染みの関係性の向上と馴れ馴れしさやスピーチロックとは絶対に異なっていることをミーティングや勉強会で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講外部講師を招き法令順守や研修資料をもとに話し合いを行い、理解を深め防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、外部内部研修を行い、職員間で理解を深める様に取組みを行っている。成年後見制度を活用し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に理念・サービス内容・個人情報の取り扱い、など十分な説明を行い分からない点などの質問に応じ納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や電話連絡、面会時にはご家族様が話しやすい雰囲気の場になるように心がけている。	ご家族の面会頻度はさまざまで、毎月面会に来れる方に対しては、その都度、ご家族の意見を聞き取るように努めている。又、面会にほとんど来れないご家族に対しては、毎月お便りを郵送している。連絡が非常に取りにくい方もおられるが、出来る限りのコンタクトを実行している。これを活かしご家族の希望や意見を反映できる様に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議、ミーティング、親睦会などで意見やアイデアを聞き入れ、運営に反映されるようにしている。	管理者は、月1回の会議の中で職員の意見を聞き取ると共に、話しやすい環境づくりに努め、いつでも個々と話しができるようにしている。働き方についても話し合いを設けたうえ意見を取り入れ、働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、各職員の努力や実績を把握し、向上心を持って安心して働けるように職員への環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は力量に応じて役割を分担したり、育成のために研修への参加を促し、職員のスキルアップに取り組んでいる。実務者研修を受ける機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、学習会・親睦会へ参加し交流を図っている。管理者は町内のサービス連絡会に3月に1回参加している。町内の研修会にも職員が参加していきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様とご家族様に入居前にホームに見学に来て頂き、相談にて要望や不安なことなど伺い、納得されたうえで安心してサービスが利用できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望、困っていることなどを聞き、思いをくみ取り安心して信頼していただけるような関係づくりに努めていき、連絡を取り合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも含めて、ご家族様へどんなサービスが必要なのか、状況をふまえたサービスを見極め、入居者様、ご家族様へ可能なかぎり支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者の得意とする作業を教わったり、気付いたりして、ご本人の思いを傾聴し、共感できるように心掛け、共に支えあえる関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお便りにて、ご本人の日頃の様子を伝えている。また面会時にはご本人とご家族がゆったりと過ごせるように配慮するなどし、職員とご家族にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のご本人の生活を把握し、今まで慣れ親しんだ場所などに行き、なじみの方と再会ができるように努めている。	ご本人の以前との関係性を希望通り継続してゆけるように、ご本人、ご家族から許可を頂きホームから友人に電話する事もある。他の入居施設で知り合いが入居されている方が面会に来られる事もあり、これらを含めた関係性の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握したうえで、相性をみて席は決めている。利用者同士が支えあい仲良く交流が図れるように職員が間に入って支援している。少しでも皆と一緒に過ごせるよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も他施設・病院に入所、入院されたご本人の様子を時折ご家族に伺っている。また、必要に応じて相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活は本人のペースに合わせ、日々の関わり合いの中からご本人の想いを把握し、希望に寄り添い、それが困難な場合は表情や行動の観察しながら本人本位の意向に沿えるように努めている。	生活は、ご本人のペースに合わせて日々支援を行っている。食事介助の際は、ご本人の表情を見ながら各自の能力に合わせて楽しく美味しくなるよう支援を行っている。職員は、ご本人の想いを理解できるよう情報を出来る限り共有し、ご本人の想いが維持及びスタッフ周知ができるよう日々のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様のこれまでの生活や手作業等それぞれに合った日課やサービスの利用の経過などご家族に聞き、職員間で把握し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	不穏になりやすい人は職員が寄り添い、会話したり手作業をお願いして安心して生活できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の意向やご家族の希望をもとにして、職員の気づき、意見を反映し介護計画を作成している。	ご自身の意思を十分に訴える事ができない方に関しては、ご家族の意向を話し合ったうえで計画を作成している。又、ご本人の日々の様子を行動や言動などで観察することから想いを把握し、スタッフ間で検討したうえで計画作成時にも活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子は、時間を追って、詳しく記録出来ており、変化があれば記録している。申し送りや記録の見直しで職員間の情報の共有はできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や緊急の受診などは入居者様ご家族のその時々状況に応じた支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の意向に応じて関係機関と協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医だけでなく、その方にあわせた医療機関を紹介し、適切な医療を受けられるよう努めている。	ホームの協力医3ヶ所の医師に定期的に訪問診療をして頂いており、医師・看護師とホームスタッフ、ご家族が連携できる体制となっている。又、専門医の受診が必要な方に関しては、専門医の受診のアドバイスを実行し、迅速な対応に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が、入居者様の状態の変化に気づいたら看護職員に連絡を取り、相談・支持を仰いでおり、適切な医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を通じての情報交換、または職員が見舞いに行き病院関係者から情報を聞いて、一日でも早く退院して、再びホームで生活できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時や終末期については、早い段階でご家族へ説明を行い、事業所とご家族との方向性を共有している。	重度化や終末期の対応については、契約時やその都度、ご家族に説明している。ホームでは看取りケアは行っていないが、ご家族の希望がある場合ギリギリの状態までホームで過ごして頂いている。専門的な説明が必要な場合には医師に相談し、医療機関の看護師の方に来て頂いている。医療処置が必要となった際には、再度医師を含めご家族と話し合いを行いながら今後の支援の方向性を取り決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は2年に1回、消防で救急救命の講習を受けて、全員が救急時の対応については把握できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	全職員が協力し、支援体制の確保に取り組んでいる。	マニュアルを作成していると共に新人職員の研修の際にも詳しく説明を行っている。緊急時の対応について全職員が勉強会を通し周知できるよう努めている。全職員が救命処置の研修を2年に1度受けており、主治医とは24時間体制で連携が取れ、緊急時には相談し、指示を頂いている。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力体制にある医療機関との連携や、介護老人福祉施設との支援体制を維持している。	特別養護老人ホームが協力施設となっており、3カ所の医療機関が協力して頂けるようになっているため、必要時には支援体制が確保できている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	職員間で連携・協力ができるように連絡網やマニュアルを作成している。	夜勤は職員が1名確保され、緊急時には5分以内に管理者が駆けつけて来られる体制となっている。緊急マニュアルを基に行動出来るよう、日頃から勉強会と振り返り指導を行っている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、利用者がスムーズに避難できるように心掛けている。また、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を実施しており、その都度課題を作り避難訓練を行っている。年1回消防署の協力を受けると共に町会長、区長とも話し合いを設けて災害時の協力体制を築いている。ハザードマップの活用、夜間の火災を想定しての訓練、地震を想定しての訓練等を実施している。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	利用者の安全確保のために体制・整備に取り組んでいる。(誘導場所・災害時備品・職員連絡網作成など)	災害時の入居者の安全確保の観点から、地域の方へ避難訓練時には声掛けをしている。食料の備蓄は三日分確保し、ガスコンロ、携帯トイレ、自家発電機、ラジオなども準備されており、災害時に向けた取り組みがしっかりとされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法令遵守接遇マナーなどの研修に参加し、学んだことを実践できる対応(人格を尊重しプライバシーを損ねない)に取り組んでいる。	研修に参加し、一人一人の尊厳のある暮らしが継続出来る様に努めている。ミーティングで職員と意見交換を行い、入居者がデリケートな排泄部分に関しては他者に気づかれない様に支援できるよう話し合いを設け、さりげないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望を伝えやすい話しかけや自己決定が出来る様に職員は、ゆったりと待つように心掛けている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりが自分のペースで思いのままに過ごせる様に支援している。利用者の出来ることを尊重し、手伝いをしてもらったりしている。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができる様に支援している。又、訪問理容にて、御本人の好みにカットして頂いている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや力を活かしながら食事が楽しくできるように、季節や行事にあわせた食事を入居者様と職員と一緒に作っている。	季節や行事を楽しめる様にホームでは工夫を凝らしている。春はお弁当を持参し花見を実施している。バイキングやお祝い事での献立に工夫をし、入居者の好きな物を選んで出前を取るなどもしている。金曜日～月曜日は食材宅配を利用し、火曜日～木曜日はホームで一緒に買い物をしに出向き、献立を決めている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった食事量と好みの飲み物の提供をして、できるだけ水分の確保が出来る様に努めている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身できる方は、口腔ケアのセットの準備と声掛けの支援行っている。口臭を感じたときは、口腔状態の確認し汚れがあるようならブラッシングの支援している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすため、排泄パターンを把握しパットの確認や定期的に声掛けをするなどの支援を行っている。	排泄チェック表を基に各自の排泄感覚を理解及び周知すると共に、ご本人の状態に合わせて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の少ない方には好みの飲み物を提供し水分量の確保に努めている又、軽運動や散歩に出かけるなど行い、個々にあった便秘予防に取り組んでいる。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤をかえたり、季節の自然物(しょうぶ・ゆず等)を浮かべたり、歌好きな方と入浴を行うときは湯船の中で一緒に歌うなど、個々に沿った支援をしている。	毎日、午前8時からお風呂のお湯を入れており、いつでも入れる様になっている。希望に応じて対応できる様努めており、毎日入浴を希望する方には毎日対応している。入浴拒否される方に関してはタイミングを見計らった支援を行ない、同性介助が必要な方についても対応している。総じて入居者の方が気持ち良く入浴できることを最も目的としている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	軽運動や散歩、趣味活動を通じて生活のリズムを整えられる様に努めている。夜間眠れず起きて来る入居者様には、お茶を飲みながらお話し、一緒に過ごす時間を作り安心して部屋に入り入眠出来る様に支援している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服している薬の目的、用法等を理解に努め、内服時の名前確認を怠らず行い、誤薬のないように注意を払っている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握した上でそれぞれの入居者様が出来る事の力を活かし、生き生きと役割が持てるように支援している。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家の様子を見に行ったり、お参りに行ったりと、外出し安心感を得られるよう努めている。また、ご家族の協力を得ながら外出ができるよう支援している。	スタッフの支援にて、近隣の散歩や行事外出、日々の食材の買い物などに一緒に行っている。ご家族との協力や話し合いで受診時の付き添いや自宅への帰省についても出来る限り支援できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了解を得てホームでお小遣いとしてお金をお預かりし入居者様の必要な品や一緒に買い物に出掛け好きな物を購入されお小遣いからご本人が支払いを行っている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居様がでんわしてほしいと言われた時には、職員は電話をかけてご家族様や知り合いの方とお話出来る様に支援している。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の皆様がいるリビングから外の景色が見えるように除草している。また、くつろいでいるときに使用する足置きで転倒しないよう配置に注意したり、入居者様が作った人形を飾ったりと居心地の良い空間づくりを心掛けている。	歩行が不安定な方もおられ、躓きで転倒しない様に十分気を付けている。リビングの共有空間には入居者の作品を飾るなどして、協同生活が心地良く、居心地の良い空間となるよう工夫がなされている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士がリビングのソファーに座りゆったりと話し合う場合がある。ダイニングは日があたり日光浴ができる。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	暑さ・寒さ対策や、部屋の匂いを除去するために消臭剤を使用したり、床の冷たさを緩和するため足マットの使用などの工夫をしている。	居室内の空調の個別調整や体調に応じた環境支援を行なっている。入居者によっては排泄で汚染などもあり、換気を十分に行っている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や廊下に手すりが付いており、安全に歩行が出来る。トイレや自室が分からなくなってしまう入居者様の為に矢印や表示などしており、自立した生活が出来るように支援している。		